



平成27年 7月 1日 NO・43

〒311-1114 水戸市塩崎町1016
 TEL029-269 -2116 FAX029-269 -3160
 Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp
 【ホームページで、カラー版が見られます】

個→二人→班→全体と進むアクティブ・ラーニング

次に、班内で『聖徳太子が目指した国づくりについて』自分の考えを発表し合った。
 「天皇中心の国」はもちろん「すてきな国」「進んだ国」「争いの無い国」「政治の国」「まとまりのある国」などの意見が発表されていた。一人一人の考えがとても魅力的に感じられる。十七条の憲法、遣隋使、冠位十二階などの資料と結びつけて、自分の頭で考えて知識を生み出す素晴らしい学修の風景だった。



次に班での学び合いが自然にはじまる。学修に集中すると、身を乗り出すなど多少姿勢が崩れるが、この姿こそ学修の姿だ。

教え合い、学び合いが自然に始まった。基本は分からない人が、友達に助けを求め、決して、分かっているひとが、『教えてやろうか』とは言わない。
 このルールが徹底してくると、学級の雰囲気はがらりと変わってくる。受容的な雰囲気が生まれてくるからだ。



個人の調べが進むと、互いに

根本先生の一年生の社会の時間にお邪魔した。びっくりした。本格的なアクティブ・ラーニングの授業が展開されているからだ。本時の課題は『聖徳太子はどのような国をつくらうとしたのか』だった。この課題に沿って、まず先生の説明を聞きながら、個人で調べる活動をしていく。



聴く力が全ての基本



聖徳太子がめざした国づくりについて、自分の考えをまとめよう！	
どんな国をめざしたか	自分の考えの根拠
天皇中心の国	十七条の憲法の中で「天皇の命令に従うべき」など、天皇が中心の法があるから
どんな国をめざしたか	自分の考えの根拠
すてきな国	争いごとのないようにルールを決めて国づくりをした。
どんな国をめざしたか	自分の考えの根拠
進んだ国	隋などに遣隋使が留学生を送り隋の進んだ制度や文化を取り入れた、ということから
どんな国をめざしたか	自分の考えの根拠
争いのない国	冠位十二階が階級を明確にし、争いを減らすこと、十七条の憲法に「争いを減らすこと」が書かれていること、指名を冠位十二階で決めること、争いのない国づくりをした。

発表はだれにするのか。黒板に対して発表するのだろうか。（日本の教室のほとんどがこの状態だと思う。）先生に対して発表するのだろうか。（一問一答的に、教師の考える正解を正解とする学習では、こうなる。）そして、このような発表を行っている教室には、能動的でアクティブな学習はおそらく実現できていない。
 上記の写真の発表風景はどうだろうか。発表者はクラスの中心方向を見て、聴く人たちは発表者の方を見ている。これが常中スタイルだ。アクティブ・ラーニングは、このような聴く姿勢の教育からはじまる。

聖徳太子はどのような国づくりを目指したのか。教科書に書かれている知識だけではなく、自分で考えた個性的な考えが示されている。一人一人の考えが違うからこそ学修《学習ではなく学修》は楽しい。